

# 2023年度 学生生活実態調査報告書



関西大学学生センター



# まえがき

「2023年度学生生活実態調査報告書」を刊行いたしました。

この報告書は、2023年9月から11月にかけて実施した調査を統計的に処理して分析し、その結果を概要やグラフおよび基礎集計表にまとめています。

この調査の目的は本学学生の生活実態を把握することであり、また学生の修学状況、課外活動やボランティア活動の実態、学生の福利厚生に関する基礎資料を作成し、経年的に比較することで、学生の教学面、生活面をサポートするための施策を迅速に立案実施するためには欠かせないものと考えております。

今年度は「本学の独自調査（課外活動全般）」の調査テーマで実施し、基本的な調査項目に加え、「ボランティア」「スポーツ」「学園祭」等の課外活動に焦点を当てた項目を中心に構成しています。さらに、社会情勢や学内および本学を取り巻く環境の変化も考慮しつつ、経年的な比較ができるようグラフやコメントを多く掲載いたしました。この結果、より正確に本学の学生像を把握できるものになったと考えております。

経済状況や社会情勢の変化に応じて、学生の意識や思考も変化を見せており、多様化する学生の生活実態を把握する一つの方法として、今後も調査を継続していく必要性を感じております。

2024年3月31日

関西大学 学生センター所長  
松村 吉信

## 調査概要

本学の「学生生活実態調査」は1955年度に始まり、2003年度までは、ほぼ毎年実施してきましたが、2004年度から2008年度までは隔年の実施となっていました。

しかし、学生生活の実態が毎年変化していることから、学生の実態をよりの確に把握するため、2009年度以降は再び毎年実施しています。

2022年度からは、旧来の調査サイクルであった「本学の独自調査」、「特別テーマ」、「日本私立大学連盟の調査を活用」及び各調査項目を見直し、現行の①「本学の独自調査（奨学支援を含む学生生活全般）」、②「本学の独自調査（課外活動全般）」、③「日本私立大学連盟の調査を活用」としました。

本年は、②「本学の独自調査（課外活動全般）」を実施しました。

### 調査期間

2023年9月11日（月）～2023年11月23日（木）

### 調査方法

インフォメーションシステムにより調査への協力を依頼した。回答方法はMicrosoftの「Forms」から回答する形式をとった。

### 調査対象

学部学生から無作為で6,000人を抽出

### 調査項目

次の3項目で構成

- (1) 基本項目
- (2) 課外活動全般
- (3) 自由記述

### 回収率

17.2% (1,032/6,000人)

### 回収結果

学部生

	在学生数	抽出数	回収数				合計	回収率
			1年	2年	3年	4年		
法 学 部	3,027	657	33	33	30	26	122	18.6%
文 学 部	3,299	717	58	49	46	32	185	25.8%
経 済 学 部	3,100	673	28	29	24	12	93	13.8%
商 学 部	3,110	677	30	16	28	17	91	13.4%
社 会 学 部	3,340	725	41	48	27	27	143	19.7%
政策創造学部	1,460	317	14	14	15	14	57	18.0%
外国語学部	745	162	13	0	10	9	32	19.8%
人間健康学部	1,369	296	14	11	14	8	47	15.9%
総合情報学部	2,179	472	18	21	10	18	67	14.2%
社会安全学部	1,161	252	14	10	11	7	42	16.7%
システム理工学部	2,093	456	17	21	15	23	76	16.7%
環境都市工学部	1,330	288	8	4	8	10	30	10.4%
化学生命工学部	1,417	308	13	7	17	10	47	15.3%
合計	27,630	6,000	301	263	255	213	1032	17.2%

※注1 在学生数は2023年5月1日現在

## その他

- ・調査結果のグラフ及び基礎集計表の数値は、データ集計時、少数第2位を四捨五入している関係上、選択肢の数値を合計しても100（%）とならない場合がある。
- ・学部をキャンパス別に分ける場合は以下のとおりで集計している。

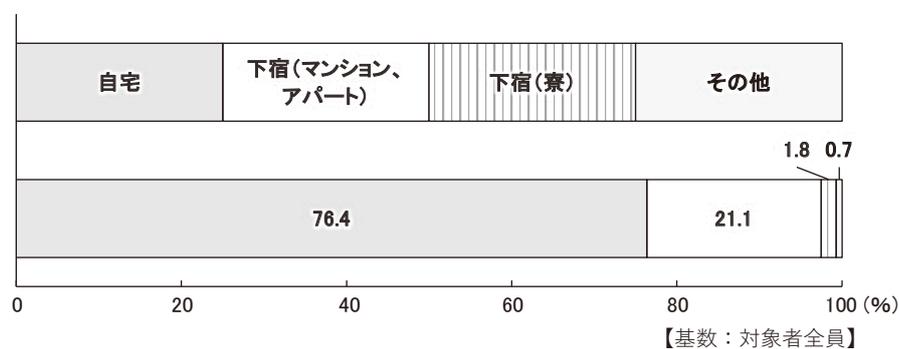
千里山キャンパス	法学部
	文学部
	経済学部
	商学部
	社会学部
	政策創造学部
	外国語学部
	システム理工学部
	環境都市工学部
	化学生命工学部
高槻キャンパス	総合情報学部
高槻ミュージズキャンパス	社会安全学部
堺キャンパス	人間健康学部

- ・理工系・文系の分類については、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部を理工系とし、その他の学部を文系として集計している。

# I 調查結果

# 居住形態

問3 あなたの住居は、次のうちどれですか。

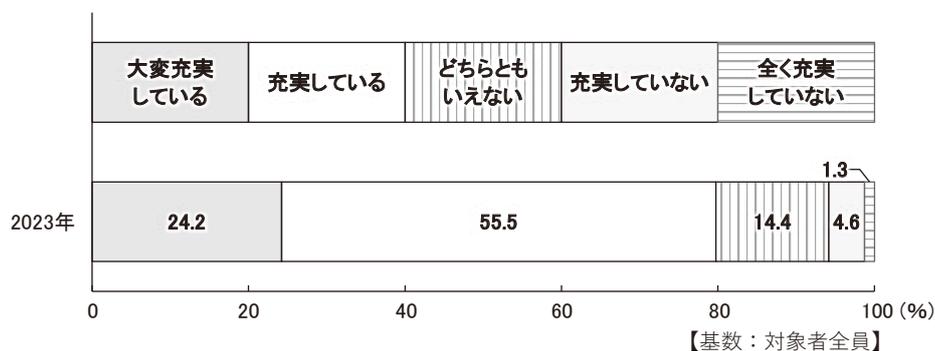


## 7割以上の学生が自宅から通学している

今回の調査で居住形態を「自宅」と回答した学生の割合は76.4%、「下宿（マンション、アパート）」または「下宿（寮）」と回答した学生の割合は22.9%となり、自宅から通学する学生は7割を超える。前回調査（2022年度）と比較すると、居住形態を「自宅」とする学生の割合は1.2ポイント増加し、「自宅外」から通学する学生の割合が1.2ポイント減少しており、「自宅」から通学する学生は増加傾向にある。

# 学生生活の充実度

問4 あなたの学生生活は充実していると思いますか。



## 学生生活の充実度は上昇傾向

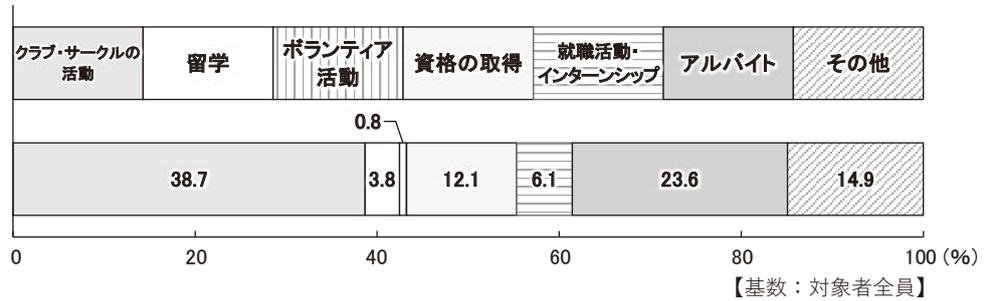
今回の調査において、「大変充実している」と「充実している」の合計値である“充実している群”の割合は79.7%であり、8割近くの学生が充実した学生生活を送っていることが分かった。

さらに直近4カ年の調査結果と比較しても、今回の調査結果における“充実している群”の割合は大きく増加している。このうち「対人関係」について、クロス集計表をみると、対人関係が「大変うまくいっている」と感じている学生の割合が94.3%と最も高く、学生生活の充実度は対人関係に大きく影響されることが分かった。

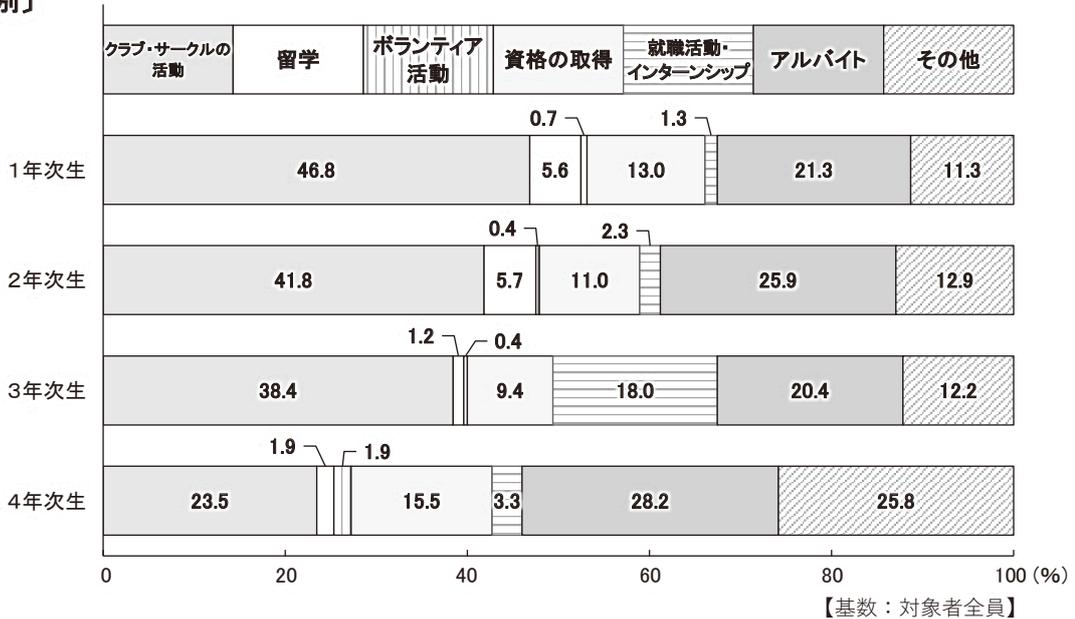
# 興味・関心事

問5 現在、大学での勉学・研究以外であなたが最も興味や関心を持って取り組んでいることはどれですか。

〔全体〕



〔学年別〕



## 「クラブ・サークルの活動」と答えた学生の割合が最多

大学での勉学・研究以外に興味や関心を持って取り組んでいることについて調査したところ、「クラブ・サークルの活動」が38.7%と最も高く、次いで「アルバイト」が23.6%という結果となった。

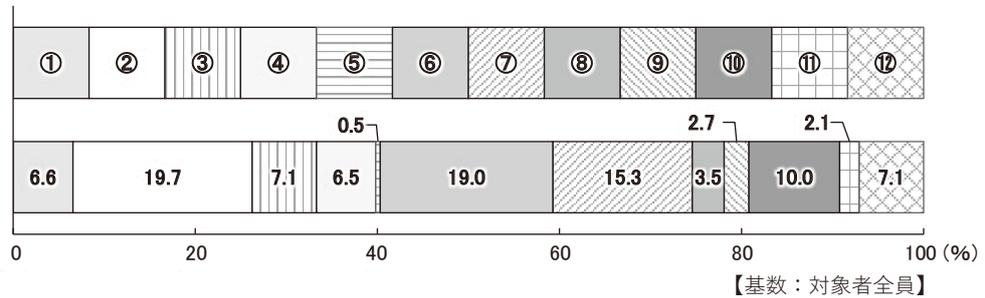
学年別のグラフを見ると、「クラブ・サークルの活動」と回答した学生の割合は、1年次生が46.8%と最も高く、上位年次になるにつれて減少していることが分かる。また、3年次生では「就職活動・インターンシップ」と回答した学生の割合が18.0%と他の年次よりも10%以上高く、年次毎に学生の興味や関心に変化していることが分かる。

# 興味・関心事の動機

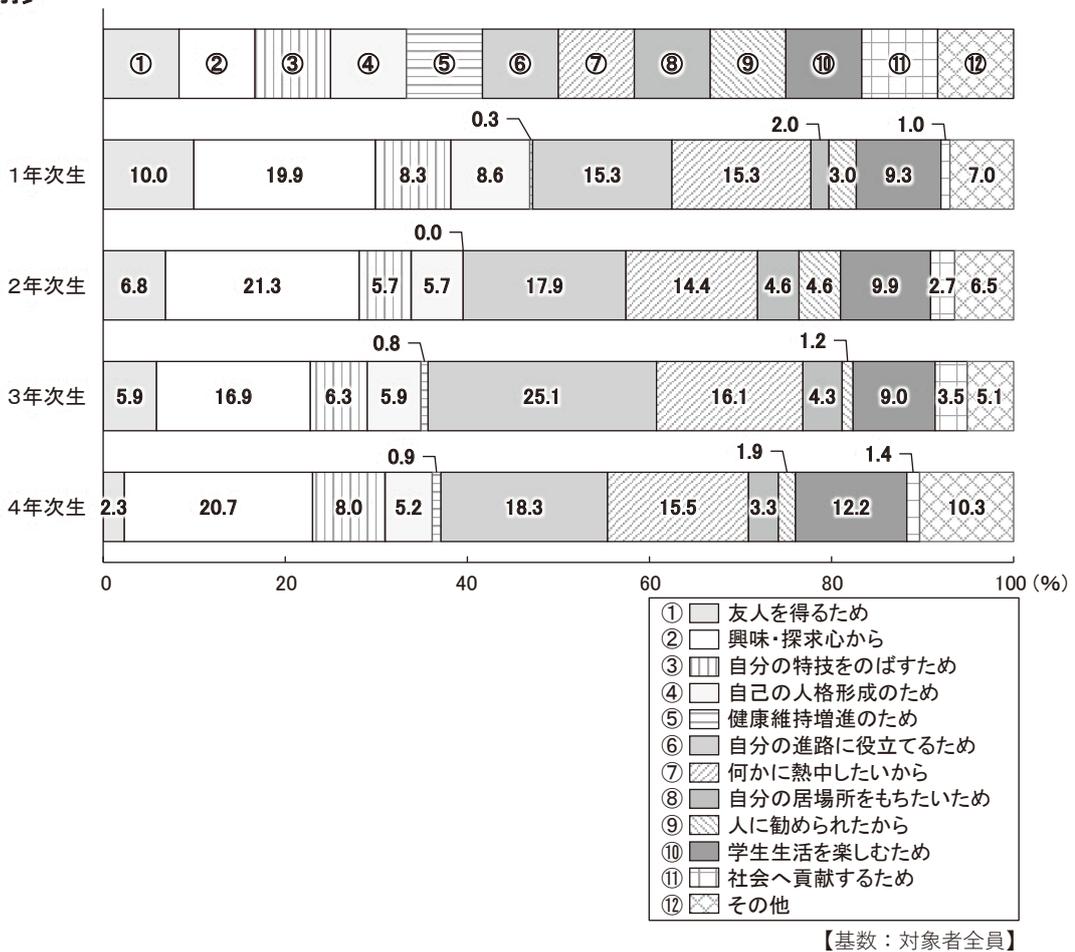
## 問6

問5「現在、大学での勉学・研究以外であなたが最も興味や関心を持って取り組んでいることはどれですか。」で回答した内容について、それに取り組みはじめた動機は何ですか。

### 〔全体〕



### 〔学年別〕



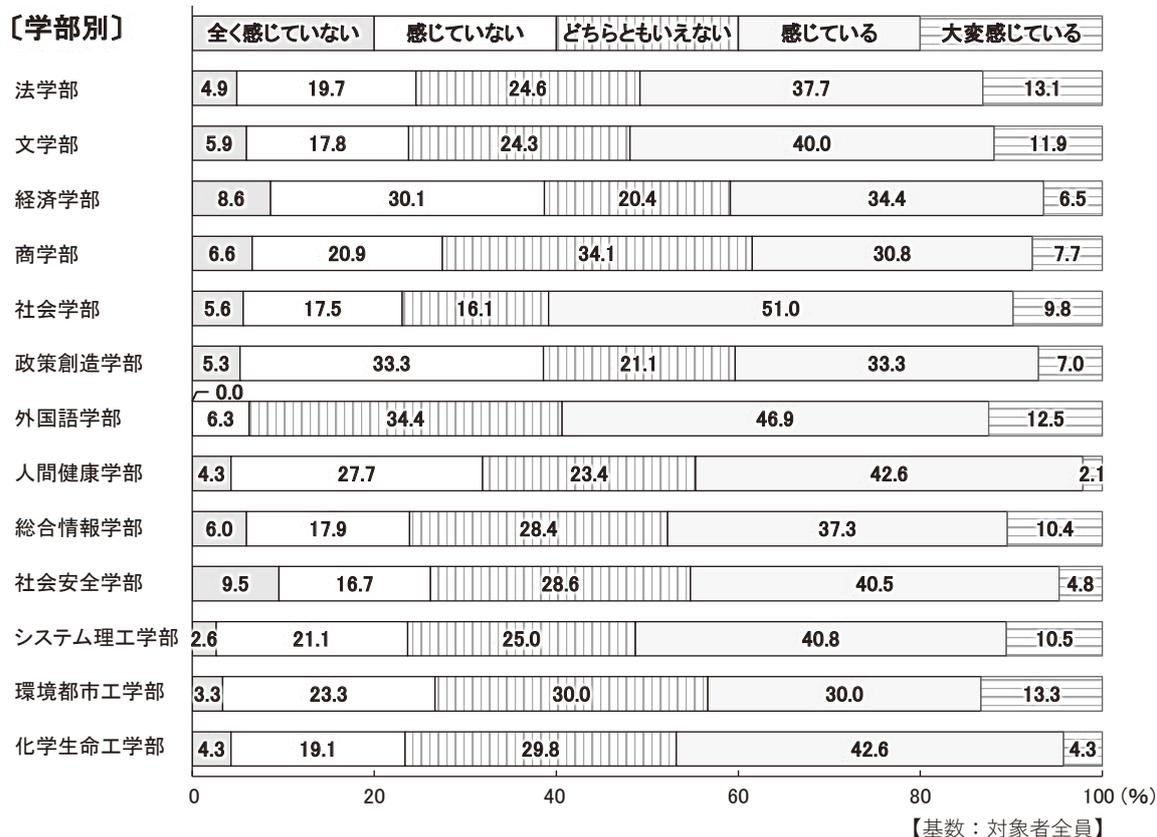
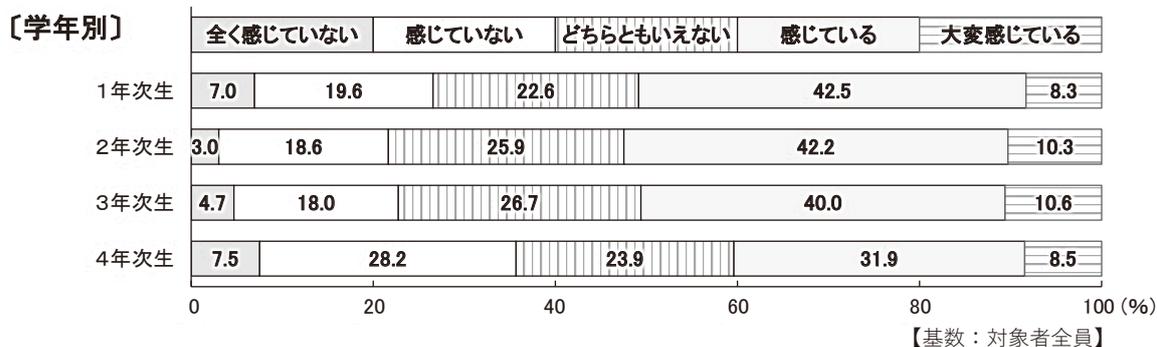
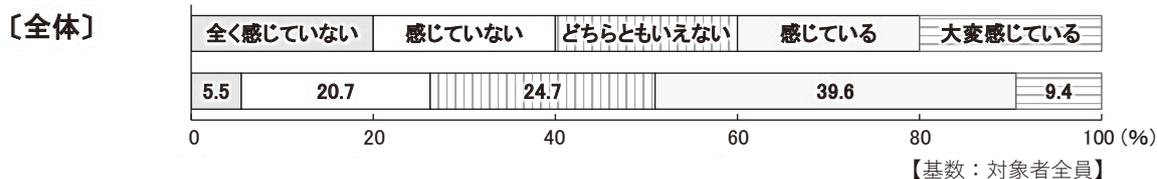
### 「友人を得るため」よりも「興味・探求心から」が多い結果に

大学での勉学や研究以外で興味や関心を持って取り組んでいることについて、それに取り組みはじめた動機を調査したところ、「興味・探求心から」が19.7%と最も高く、次いで「自分の進路に役立てるため」が19.0%、「何かに熱中したいから」が15.3%という結果となった。

「友人を得るため」は、回答した学生の割合が最も高い1年次生でも10.0%と低い結果となり、多くの学生が友人を得ることよりも自身の興味や探求心、将来の進路のために取り組みはじめたことが分かる。

# ストレス・不安

## 問7 日常生活においてストレスや不安を感じていますか。



### 約半数の学生がストレスや不安を感じている

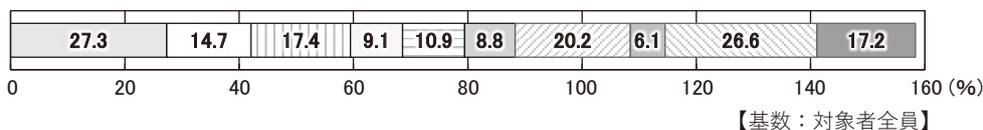
日常生活においてストレスや不安を感じているかについて調査したところ、「大変感じている」「感じている」と回答した学生の割合は49.0%となり、前回調査（2022年度）から10.2ポイント増加した。

また、「大変感じている」「感じている」と回答した学生の割合を学年別でみると、1年次生が50.8%、2年次生が52.5%、3年次生が50.6%、4年次生40.4%となり、4年次生を除く学年で半数を超える結果となった。

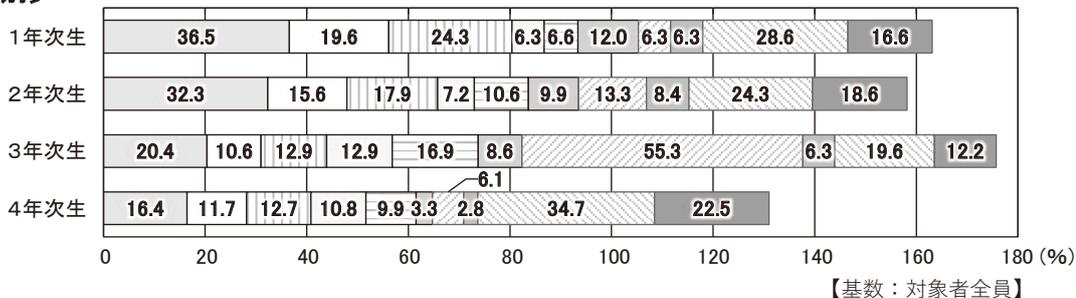
# 不安や悩みの内容

## 問8 どのような不安や悩みがありますか。(複数選択可)

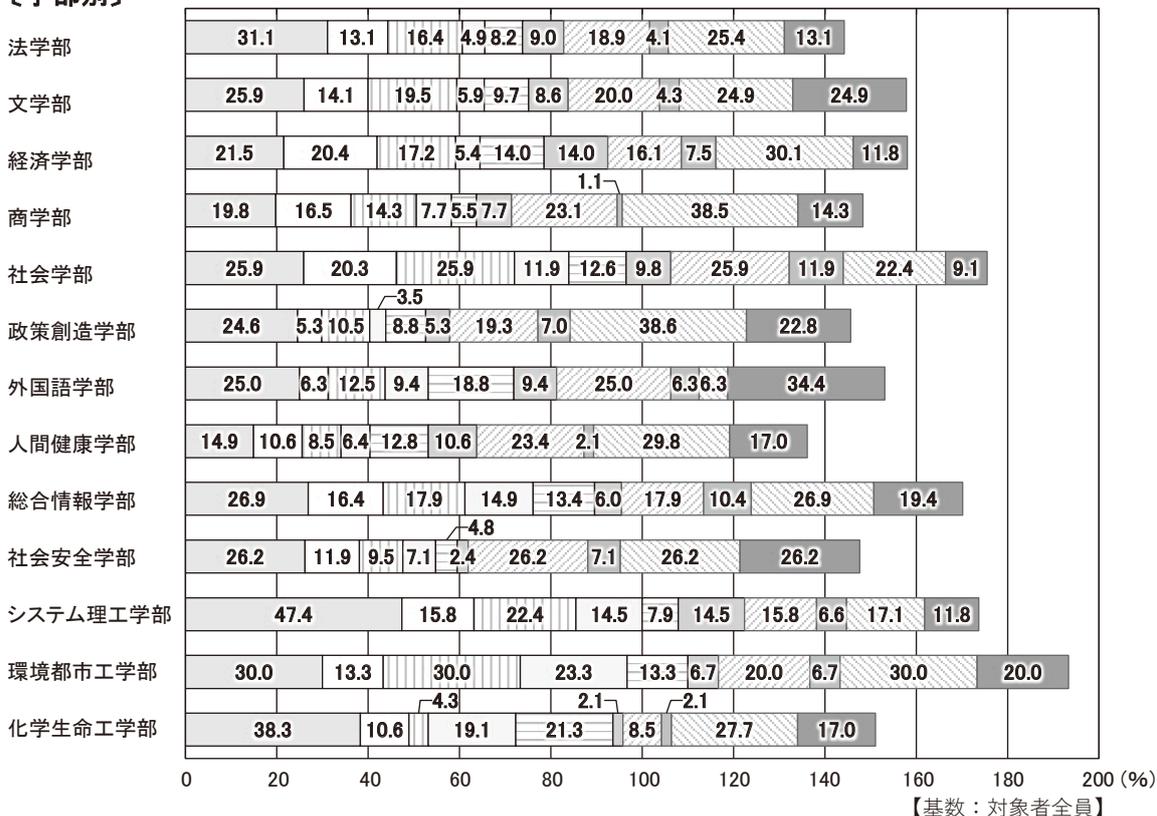
### 〔全体〕



### 〔学年別〕



### 〔学部別〕



## 上位年次になるにつれ修学面や対人関係に関する不安や悩みは減少

不安や悩みについて「授業など学業が順調でないこと」と回答した学生の割合が27.3%と最も高く、次いで「現時点で不安や悩みはない」が26.6%という結果となった。

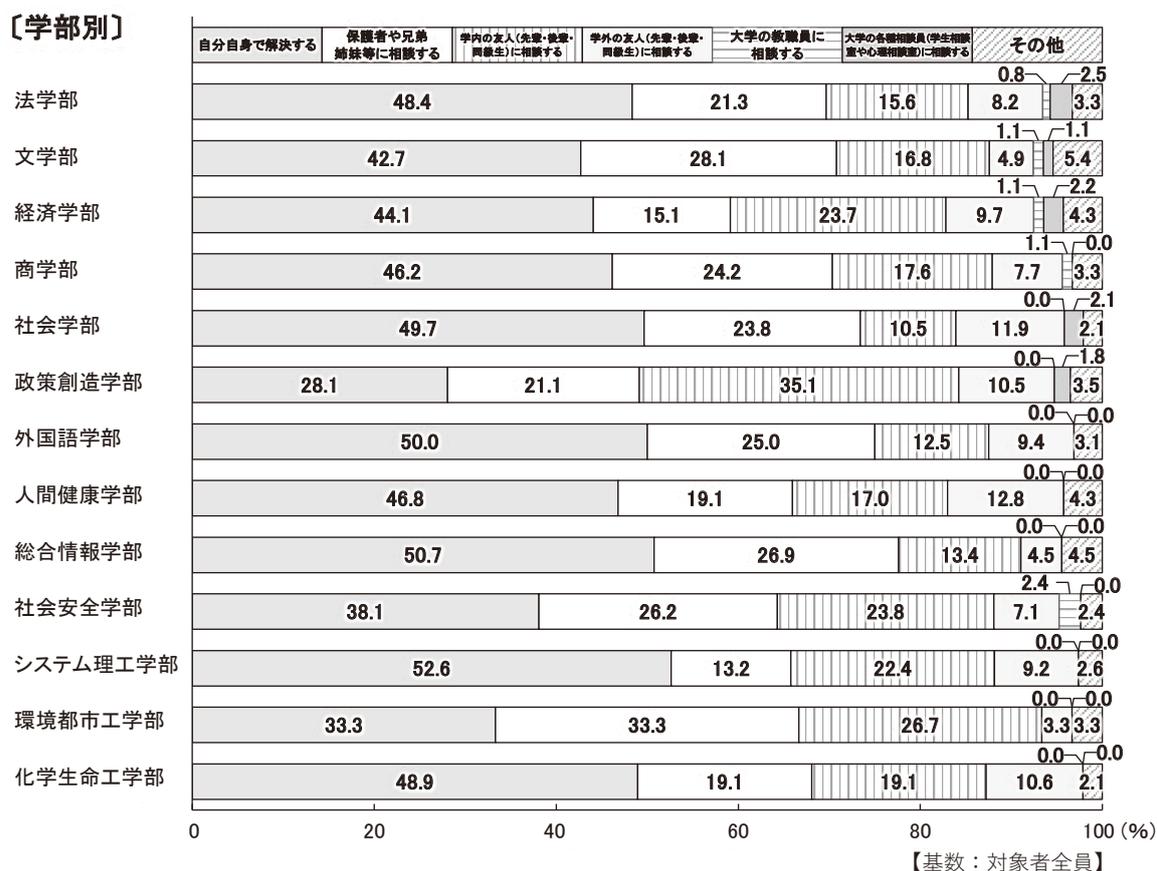
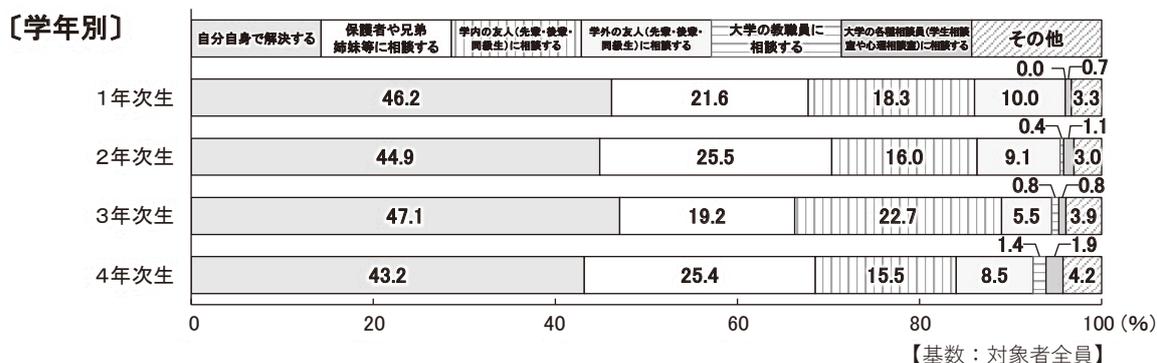
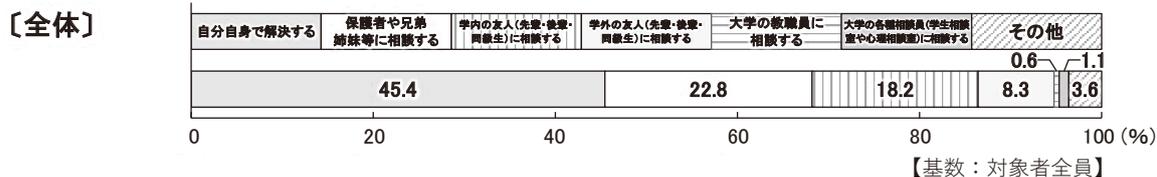
学年別にクロス集計でみると、「授業など学業が順調でないこと」「友人と思うように交流することができないこと」「クラブ・サークル活動が順調でないこと」に悩みや不安があると回答した学生の割合は、上位年次になるにつれて低くなり、年次進行とともに修学面や対人関係等の不安や悩みが解消されていくことが分かった。

また、「就職活動が順調でないこと」と回答した学生の割合は、3年次生が55.3%と突出して最も高く、就職活動を行う学生の不安や悩みが顕著に表れる結果となった。

- 授業など学業が順調でないこと
- 友人が思うように作れないこと
- 友人と思うように交流することができないこと
- 授業料等の支払いが困難であること
- 生活費(食費や家賃を含む)の支払いが困難であること
- クラブ・サークル活動が順調でないこと
- 就職活動が順調でないこと
- 大学生活での悩みや不安を相談する窓口がわからないこと
- 現時点で不安や悩みはない
- その他

# 不安・悩みの解決方法

問9 不安や悩みをどのように解決しますか。最も用いる解決方法を選択してください。



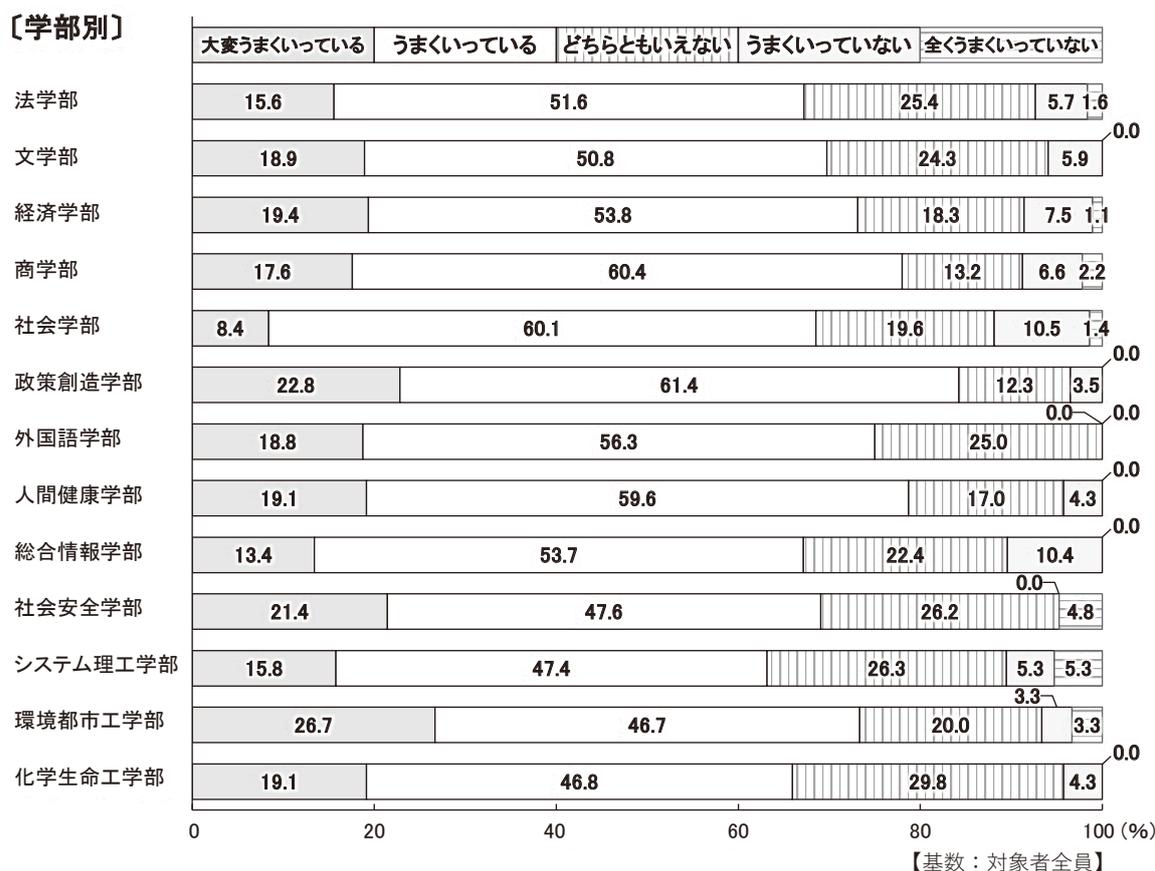
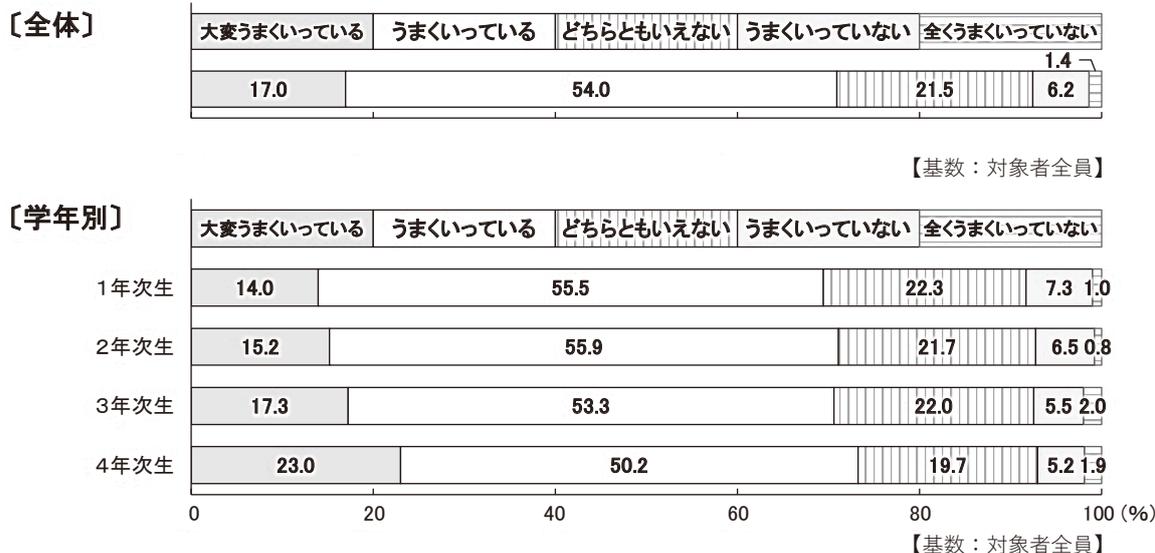
## 半数弱の学生が家族や友人に相談すると回答

不安や悩みの解決方法について「保護者や兄弟姉妹等に相談する」「学内の友人（先輩・後輩・同級生）に相談する」「学外の友人（先輩・後輩・同級生）に相談する」と回答した学生の割合は49.3%となり、全体の半数弱の学生が不安や悩みを家族や友人といった近しい人に相談することが分かった。

また、「自分自身で解決する」と回答した学生の割合について学部別に見てみると、システム理工学部が52.6%と最も高く、次いで総合情報学部が50.7%となった。

# 対人関係

## 問10 あなたは自身の対人関係についてどう感じていますか。



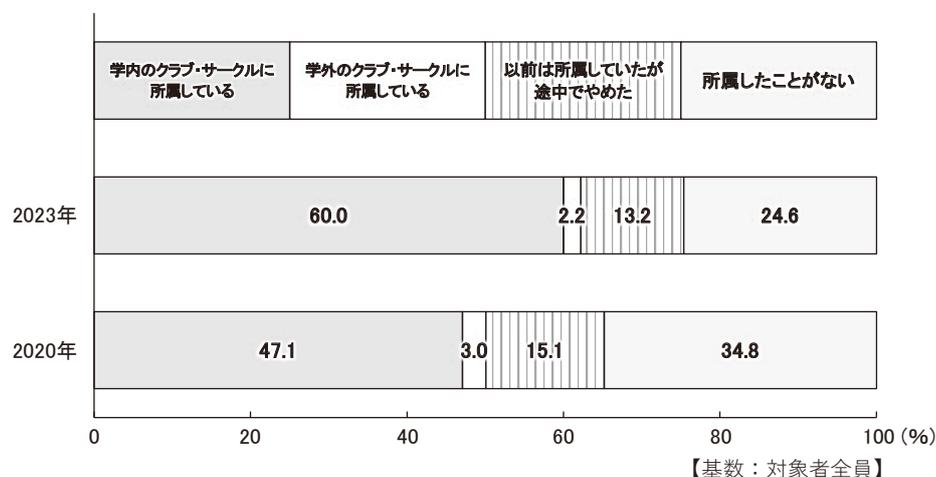
### 約7割の学生が対人関係はうまくいっていると回答

対人関係について、「大変うまくいっている」「うまくいっている」と回答した学生の割合は71.0%となり、前回調査（2022年度）から2.1ポイント増加し、4年次生が73.2%と最も高く、1年次生が69.5%と最も低い結果となった。

また、充実度別にクロス集計で見ると「大変充実している」と回答した学生のうち、89.2%が「大変うまくいっている」「うまくいっている」と回答していることから、学生生活の充実度と対人関係が円滑であることには一定の相関があることが分かった。

# 課外活動への参加状況

**問11** あなたは現在、クラブ・サークルに所属していますか。複数の場合は主なもの1つを選択してください。



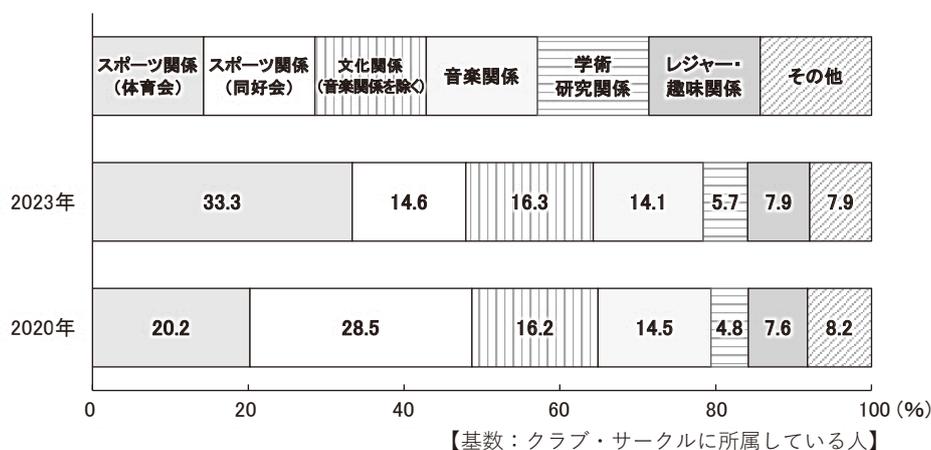
## クラブ・サークル所属学生が大幅に増加

クラブ・サークルへの参加状況については、「学内のクラブ・サークルに所属している」と回答した学生の割合が、60.0%となっており、前回調査（2020年度）から12.9ポイント増加した。2020年度以降、課外活動参加者の増加傾向が続いている。また、「所属したことがない」と回答した学生は24.6%となっており、前回調査（2020年度）から10.2ポイント減少した。クロス集計表でみると、1年次生において、「所属したことがない」と答えた学生の割合は17.9%となっており、前回調査（2020年度）と比較して、51.5ポイント減少した。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、課外活動への参加機会が増加したことが推測できる。

# 課外活動の種類

## 問12

問11で「学内のクラブ・サークルに所属している」または「学外のクラブ・サークルに所属している」と回答した方にお尋ねします。あなたはどのようなクラブ・サークルに所属していますか。

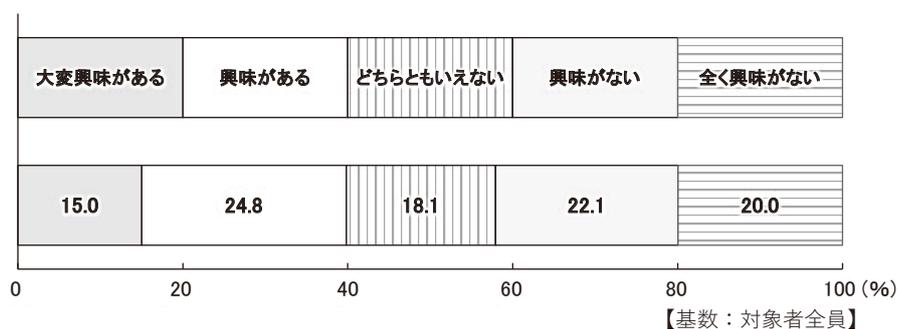


### スポーツ関係（体育会）に所属する学生が増加し、 スポーツ関係（同好会）に所属する学生が減少

所属しているクラブ・サークルの所属については、「スポーツ関係（体育会）」と回答した学生の割合が33.3%となり、前回調査（2020年）から13.1ポイント増加した。また、「スポーツ関係（同好会）」と回答した学生の割合が14.6%となり、13.9ポイント減少した。なお、「文化関係（音楽関係を除く）」と回答した学生の割合が16.3%、「学術研究関係」が5.7%となり、前回調査（2020年度）とほぼ同様の水準となった。

# 体育会スポーツへの興味

問13 あなたは体育会スポーツ（総合関関戦含む）に興味がありますか。

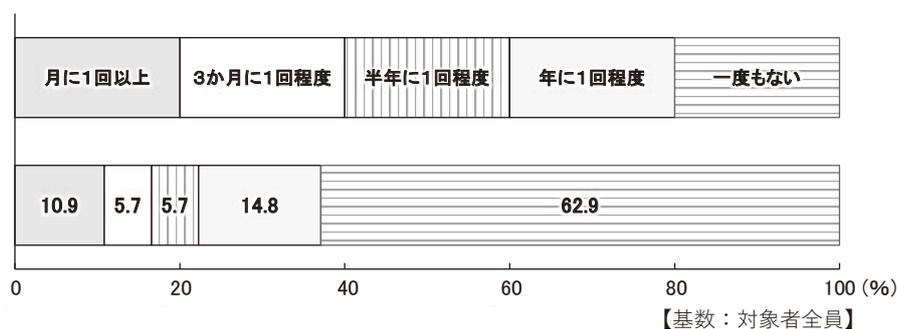


## 4割の学生が興味があると回答

体育会スポーツ（総合関関戦含む）への興味について調査したところ、「大変興味がある」「興味がある」と回答した学生の割合は39.8%であり、「興味がない」「全く興味がない」と回答した学生の割合は42.1%であった。今回の調査で体育会スポーツへの興味について偏りがなかったことが分かった。

# 体育会スポーツの観戦頻度

問14 あなたは体育会スポーツ（総合関関戦含む）の試合をどのくらいの頻度で観戦したことがありますか。



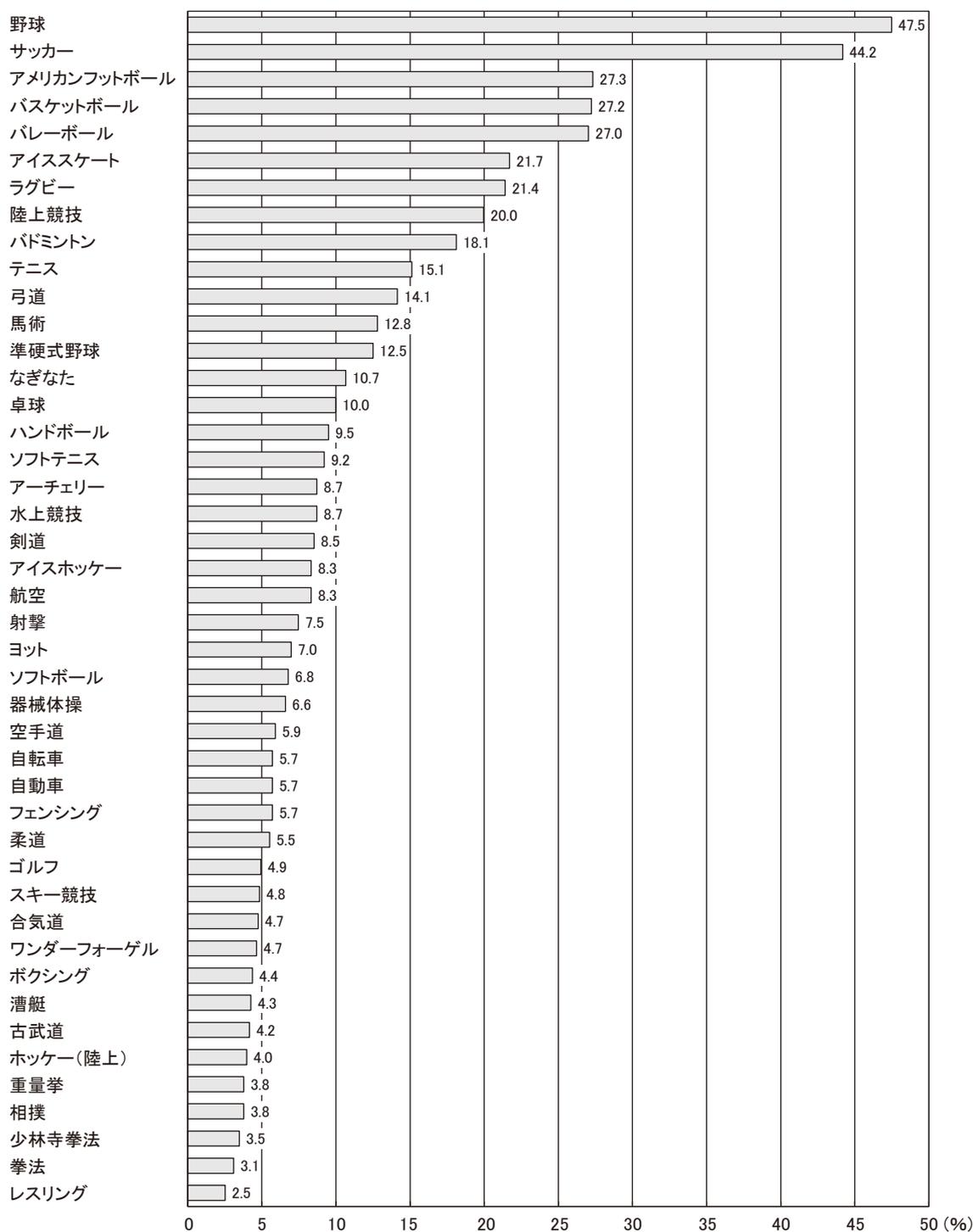
## 6割の学生が一度も観戦したことがないと回答

体育会スポーツ（総合関関戦含む）の試合をどのくらいの頻度で観戦したことがあるか調査したところ、「一度もない」と回答した学生の割合は62.9%であった。次いで、「年に1回程度」と回答した学生の割合が14.8%であった。体育会スポーツへの興味はあるが、観戦するまでは至っておらず、「一度もない」と回答した層に対し、SNSや学内掲示等で興味関心を促し、今後は観戦してもらえるような情報発信の工夫を行う必要があるだろう。

# 強くなって欲しいスポーツ

問15

あなたが関西大学の体育会スポーツの中で強くなって欲しい（応援に行きたい）と期待するものはどれですか。選択肢のうち主なものから順に5つ選んでください。



【基数：対象者全員】

※1位～5位の合計値

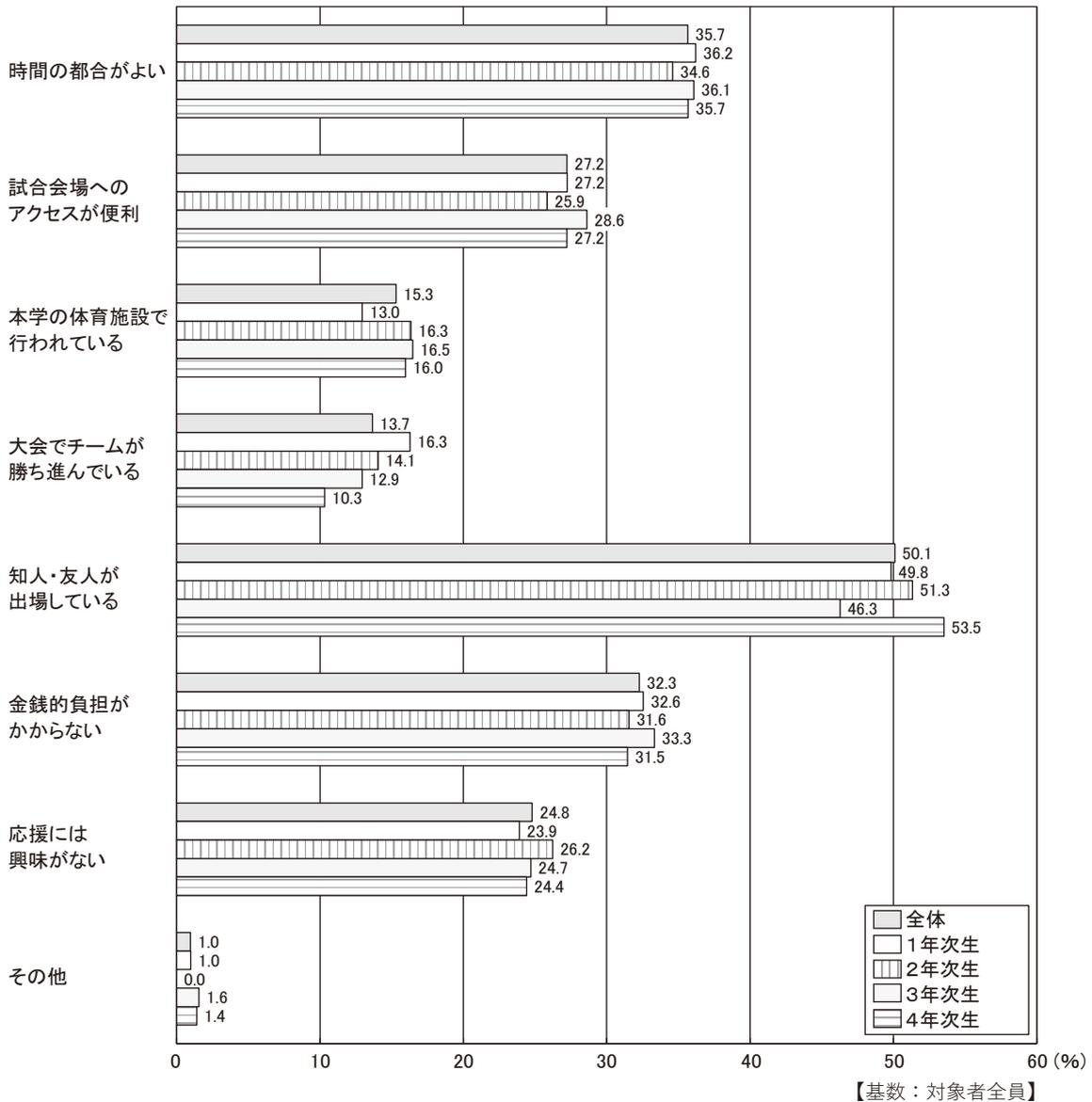
## 上位5種目に変動あり

上位5種目の順位について、前回調査（2020年度）では、①野球②サッカー③アイススケート④ラグビー⑤バレーボールであったが、今回の調査では①野球②サッカー③アメリカンフットボール④バスケットボール⑤バレーボールとなり、3位～4位の種目に変動した。上位2種目と③アメリカンフットボール④バスケットボール⑤バレーボールの3種目では約17ポイントの開きがあり、①野球②サッカーは時代に左右されない根強い人気があることが分かる結果となった。

# 応援に行きたい体育会スポーツの条件

問16

あなたは、どのような条件なら体育会スポーツ（総合関関戦含む）の応援に行きますか。主なものを2つ選択してください。



その他（自由記述）

- ・オンラインでの応援が良い
- ・そもそも会場までわざわざ行くほど興味はない
- ・ルールが分からないので、行ってもつまらない
- ・スポーツには興味がない

## 「知人・友人が出席していたら応援に行く」が約半数に

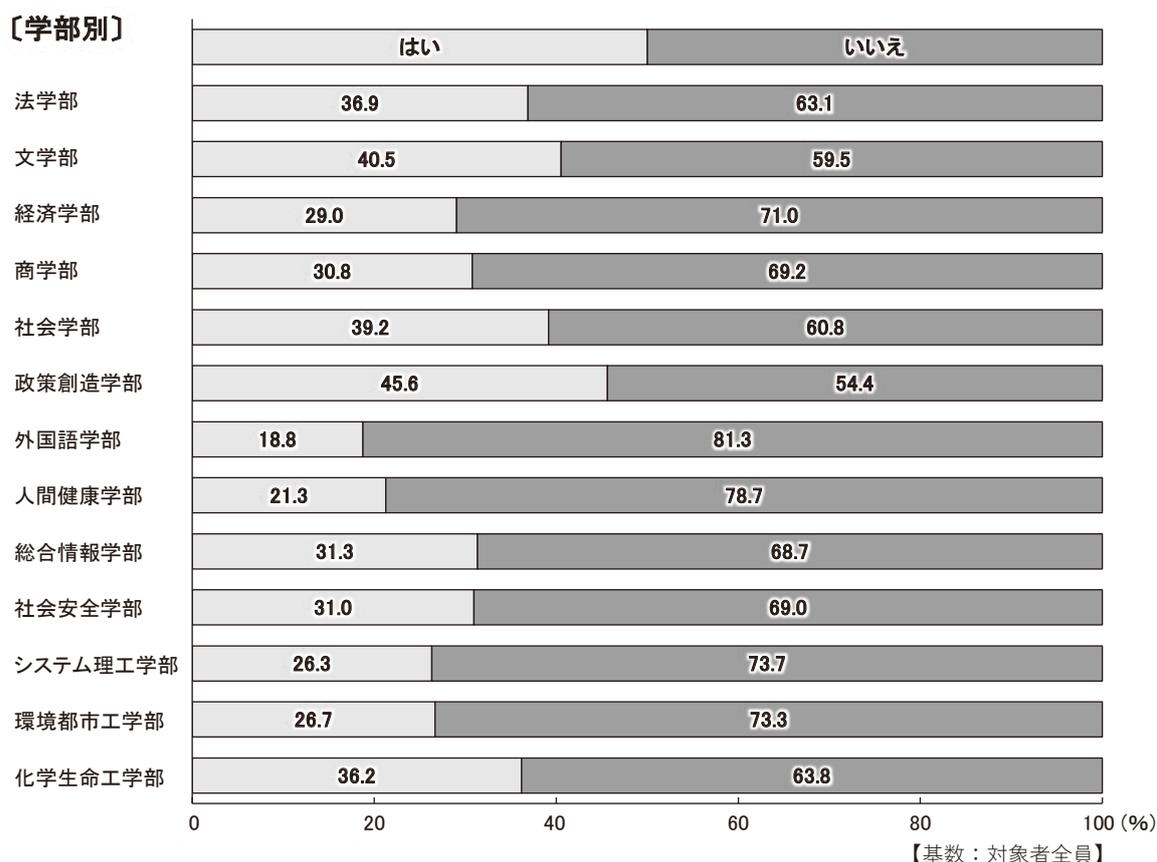
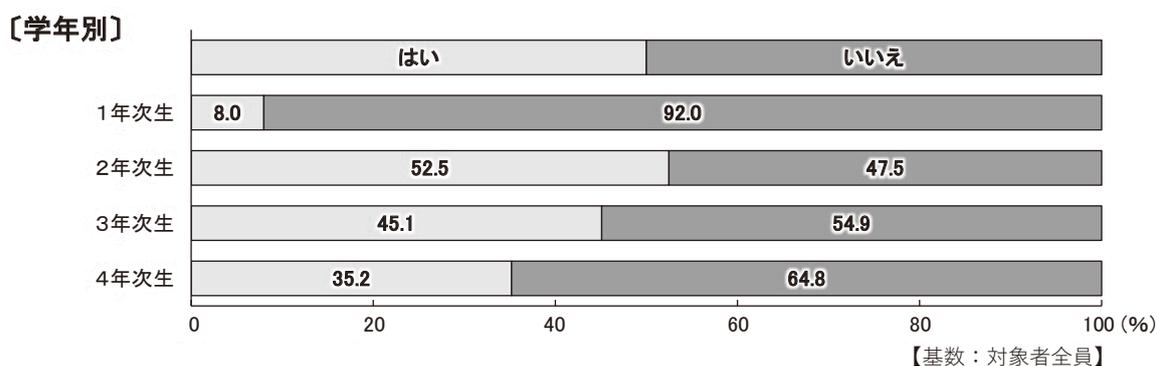
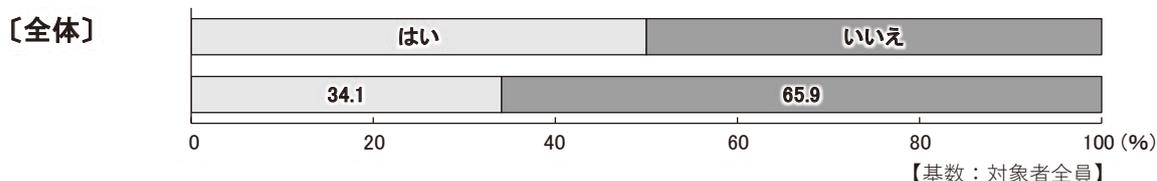
どのような条件なら体育会スポーツ（総合関関戦含む）の応援に行くか調査したところ、学生全体における割合が最も高かったのは「知人・友人が出席している」で50.1%あり、学年別でも同じ結果となった。また、どの項目についても全体と学年別の差異はなく、「応援には興味がない」と回答した学生はどの学年でも25%程度と同じような傾向がみられた。

「その他」と回答した学生の割合は学生全体の1.0%であり、中には「オンラインでの応援が良い」、「そもそも会場までわざわざ行くほど興味はない」などが挙げられていた。これらの結果から、オンライン配信などの施策・周知方法を検討していく必要があることが分かった。

# 統一学園祭への参加

## 問17

あなたは関西大学入学後、統一学園祭（オンラインを含む）に来場者・実行委員・企画者のいずれかで参加したことがありますか。



### 3割の学生が統一学園祭（オンライン含む）に参加

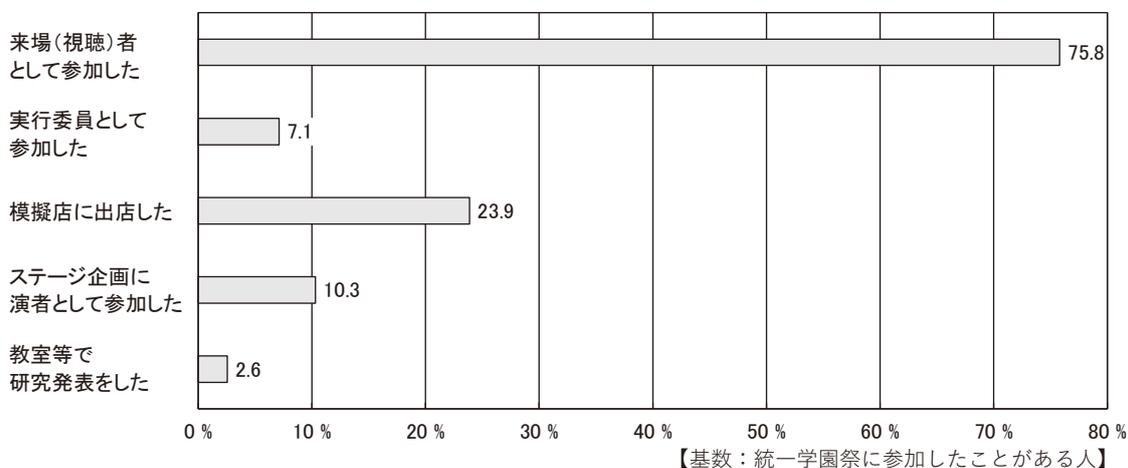
関西大学入学後、統一学園祭（オンラインを含む）に来場者・実行委員・企画者のいずれかで参加したことがあると回答した学生の割合は34.1%であった。クロス集計表で学年別にみると統一学園祭（オンライン含む）に参加したことがあると回答した学生のうち、2年次生が52.5%と最も高く、1年次生の8.0%が最も低い結果となった。

さらに、クロス集計表で学部別にみると統一学園祭（オンライン含む）へ参加したことがあると回答した学生のうち、政策創造学部が45.6%と最も高く、次いで文学部が40.5%と高い割合となった。

# 統一学園祭への参加形態

## 問18

問17「あなたは関西大学入学後、統一学園祭（オンラインを含む）に来場者・実行委員・企画者のいずれかで参加したことがありますか。」で「はい」と回答した方にお尋ねします。  
あなたは統一学園祭にどのような形で参加しましたか。（複数選択可）



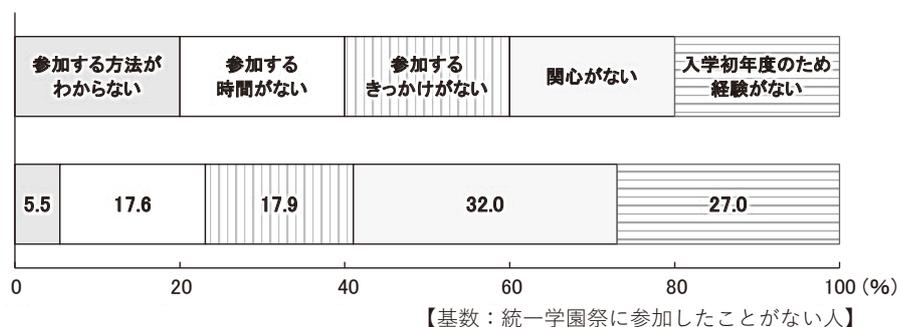
## 8割近い学生が来場（視聴）者として統一学園祭に参加

統一学園祭に参加した学生に対し、参加形態について調査したところ、「来場（視聴）者として参加した」が75.8%と最も高く、次いで「模擬店に出店した」が23.9%、「ステージ企画に演者として参加した」が10.3%、「実行委員として参加した」が7.1%、「教室等で研究発表をした」が2.6%という結果になった。このことから、統一学園祭に参加する学生は来場者が約8割を占めており、残りの約2割が実行委員もしくは企画者で構成されていることが分かった。

# 統一学園祭に参加しない理由

## 問19

問17「あなたは関西大学入学後、統一学園祭（オンラインを含む）に来場者・実行委員・企画者のいずれかで参加したことがありますか。」で「いいえ」と回答した方にお尋ねします。  
統一学園祭に参加しなかった理由は何ですか。



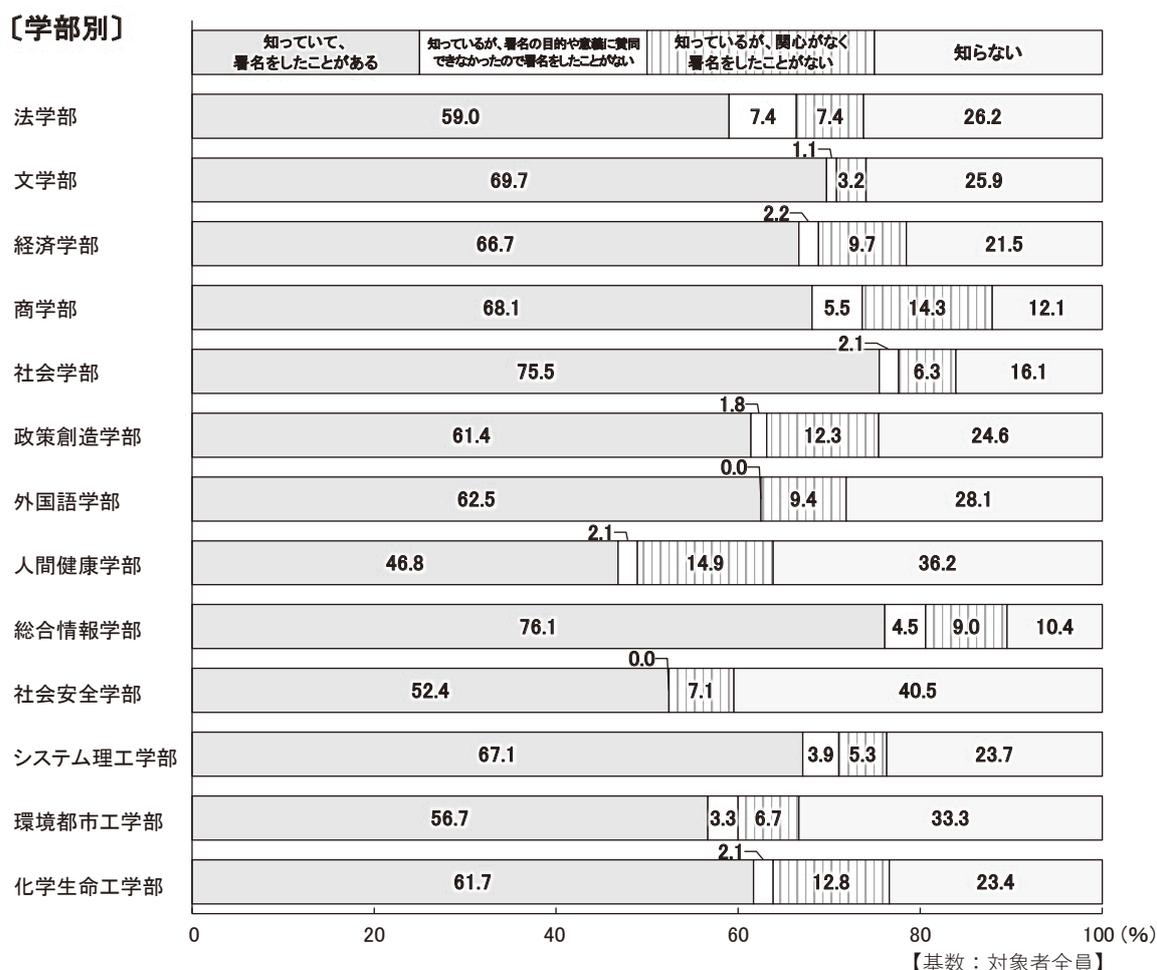
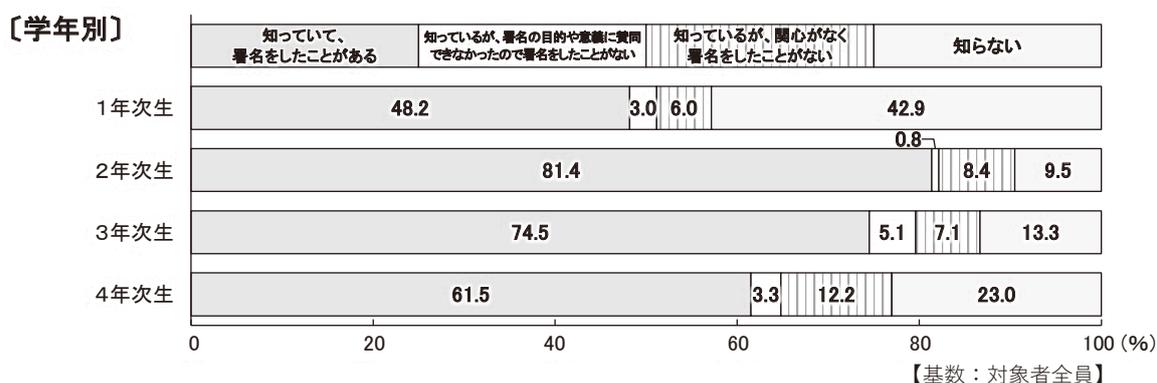
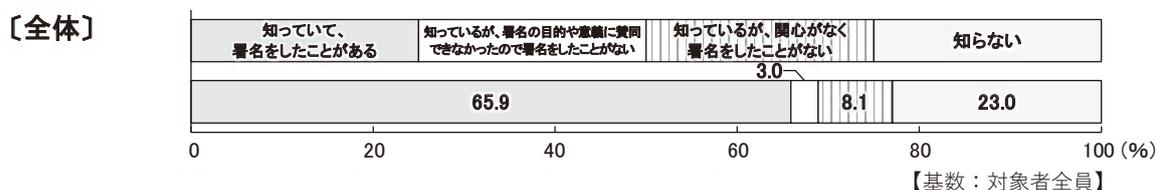
## 全体の約3割の学生が統一学園祭に関心がないと回答

統一学園祭（オンラインを含む）に来場者・実行委員・企画者のいずれかで参加したことがありますかと調査し、「いいえ」と回答した学生のうち、その理由を調査したところ、32.0%の学生が「関心がない」と回答した。その他の回答として、「参加する方法がわからない」が5.5%、「参加する時間がない」が17.6%、「参加するきっかけがない」が17.9%、「入学初年度のため経験がない」が27.0%となった。以上の結果から、参加率の向上を図るためには、「関心がない」や「参加する方法がわからない」、「参加するきっかけがない」といった学生に対し、ホームページやSNS、学内掲示等で興味関心を促し、機会創出に繋がる情報発信を積極的に行う必要があることが分かった。

# 統一学園祭署名活動の認知度

問20

統一学園祭の開催にあたっては、学部学生の総意を得るために各学部で署名活動を行っていることを知っていますか。



## 署名活動の認知度は77%という結果に

統一学園祭の開催にあたっては、学部学生の総意を得るため、過半数以上の賛同署名が必要となり、その署名を以って各学部において学園祭実行委員会が発足し、統一学園祭実行委員会の結成を以って、統一学園祭の開催に必要な手続きが進められる。

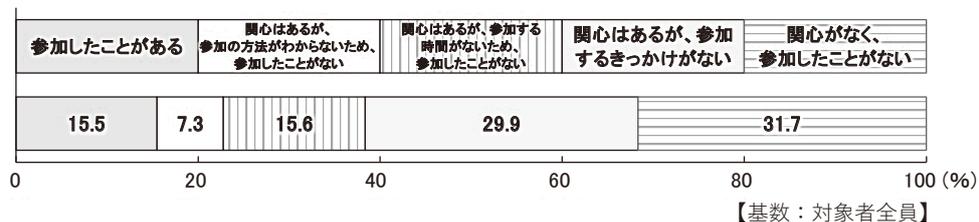
今回は署名活動の認知度について調査を行ったところ、回答別に学生の割合をみると「知っていて、署名したことがある」が65.9%、「知っているが、署名の目的や意義に賛同できなかったので署名をしたことがない」が3.0%、「知っているが、関心がなく署名をしたことがない」が8.1%、「知らない」が23.0%という結果となった。

全体の7割以上の学生が、各学部で行っている署名活動について認知していることが分かった。

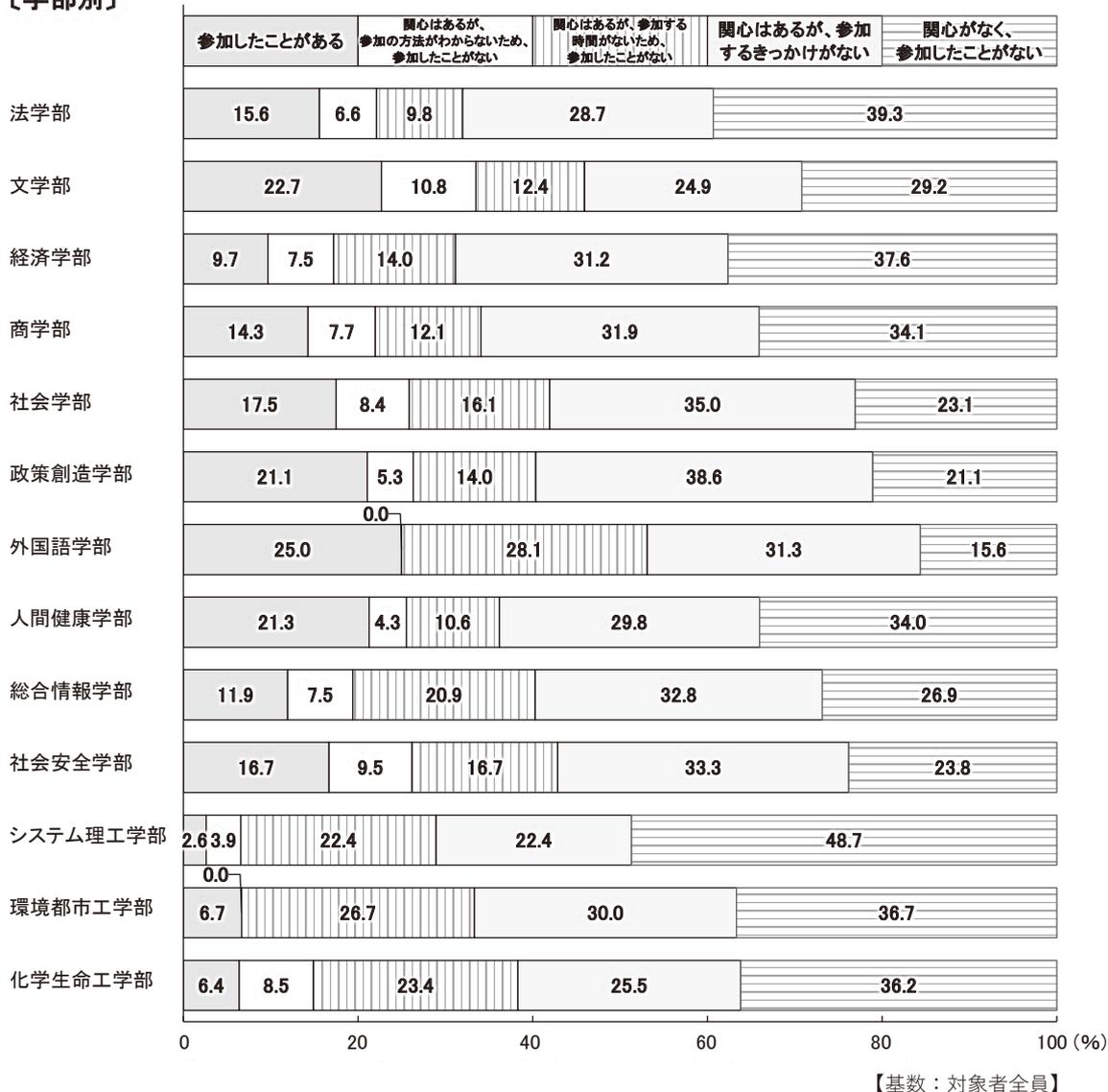
# ボランティア活動への参加

問21 あなたは大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。

〔全体〕



〔学部別〕



## 「ボランティア活動に関心がある」と回答した学生の割合が半数以上

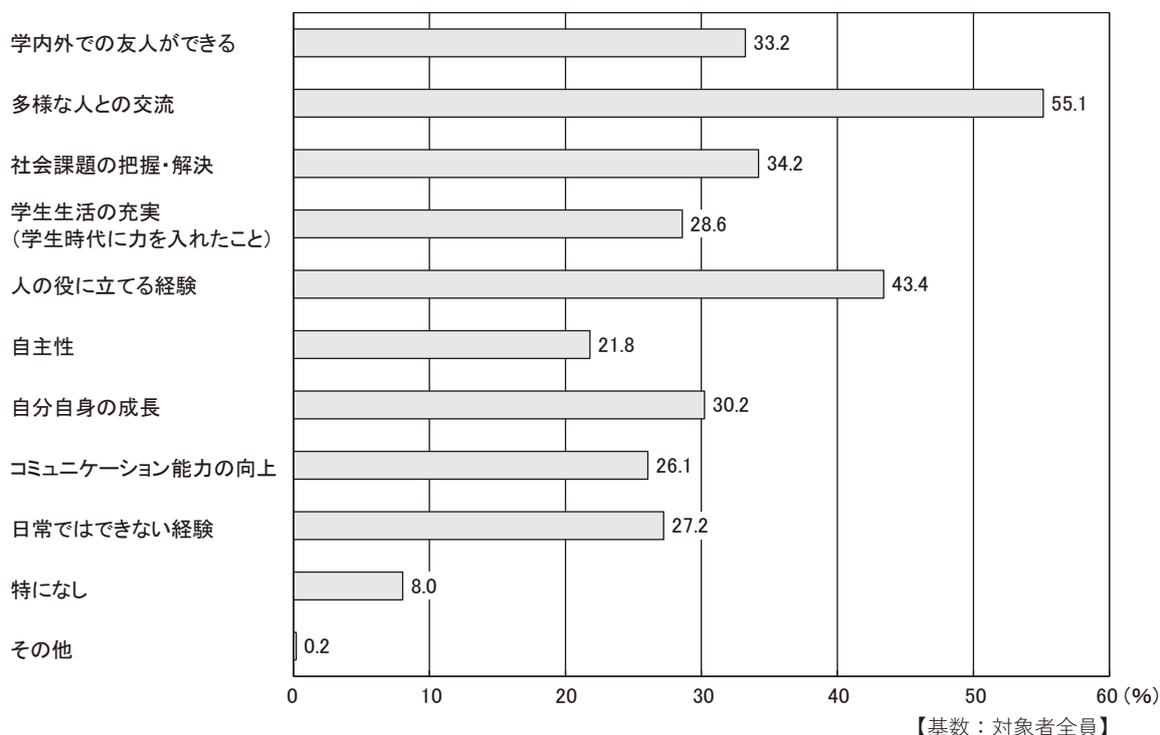
今回の調査でボランティア活動に「参加したことがある」と回答した学生の割合は15.5%で、前回調査（2021年度）から3.1ポイント高い結果となった。また、「関心がなく、参加したことがない」と回答した学生の割合は31.7%であり、それ以外の52.8%については、「参加したことは無いが、ボランティア活動に関心はある」ことを示していることから、本学学生のボランティア活動への関心が高いことが分かった。

また、学部別のクロス集計表で見ると、理工系学部及び人間健康学部以外の9学部においては、「参加したことがある」と回答した学生の割合は、前回調査時より高いことが分かった。しかし、理工系3学部においては、「参加したことがある」と回答した学生の割合は前回調査時より低い結果となった。

今回の調査にて、「関心がなく、参加したことがない」と回答した31.7%の関心のない層へのアプローチが課題であることがうかがえた。

# ボランティア活動から得られると思うもの

問22 あなたはボランティア活動を通して何が得られると思いますか。(複数選択可)



その他（自由記述）

・就職のため

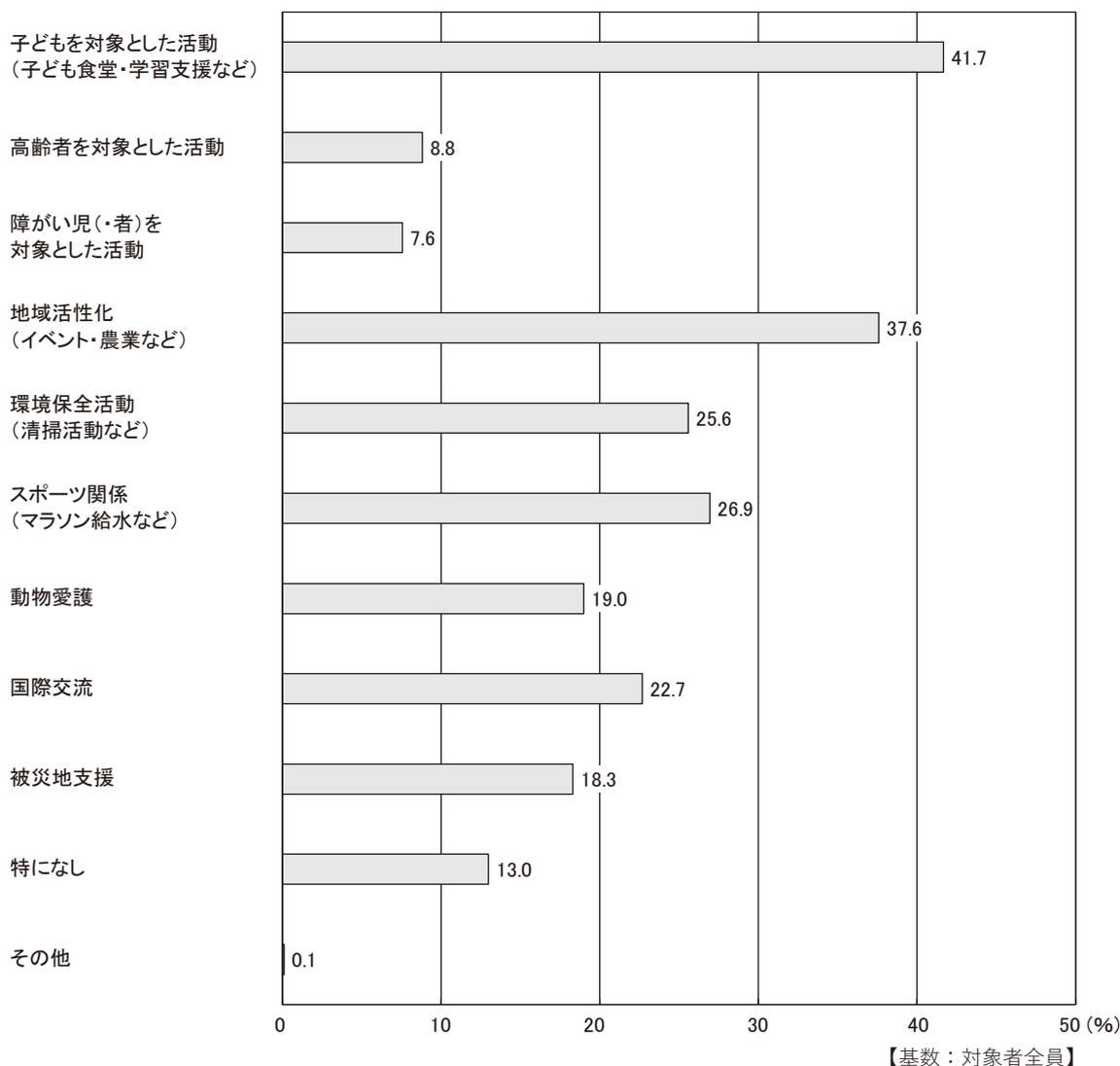
## 「多様な人との交流」と回答した学生の割合が半数以上

ボランティア活動から得られると思うものについては、「多様な人との交流」と回答した学生の割合が55.1%と最も高く、次いで「人の役に立てる経験」が43.4%、「社会課題の把握・解決」が34.2%であった。

充実度別にクロス集計表を見ると、「多様な人との交流」と回答した学生のうち、「大変充実している」と感じている学生の割合が58.0%と最も高く、ボランティア活動を通して多様な人と交流できる機会を創出することで、学生生活の充実を実感する学生が増加することが推察できる。

# ボランティア活動の関心分野

問23 あなたはどのような分野のボランティアに参加したいですか。(複数選択可)



その他（自由記述）

・映像系

## 子どもを対象としたボランティアへの関心が高い結果に

ボランティア活動の関心分野については、「子どもを対象とした活動」と回答した学生が41.7%と最も高く、前回調査（2020年度）と比較すると、15.1ポイント増加しており、子どもを対象としたボランティア活動への関心が高まっていることが分かった。次いで「地域活性化」が37.6%で0.7ポイント減少はしているものの、前回調査（2020年度）に引き続き高い関心を集めていることが分かった。

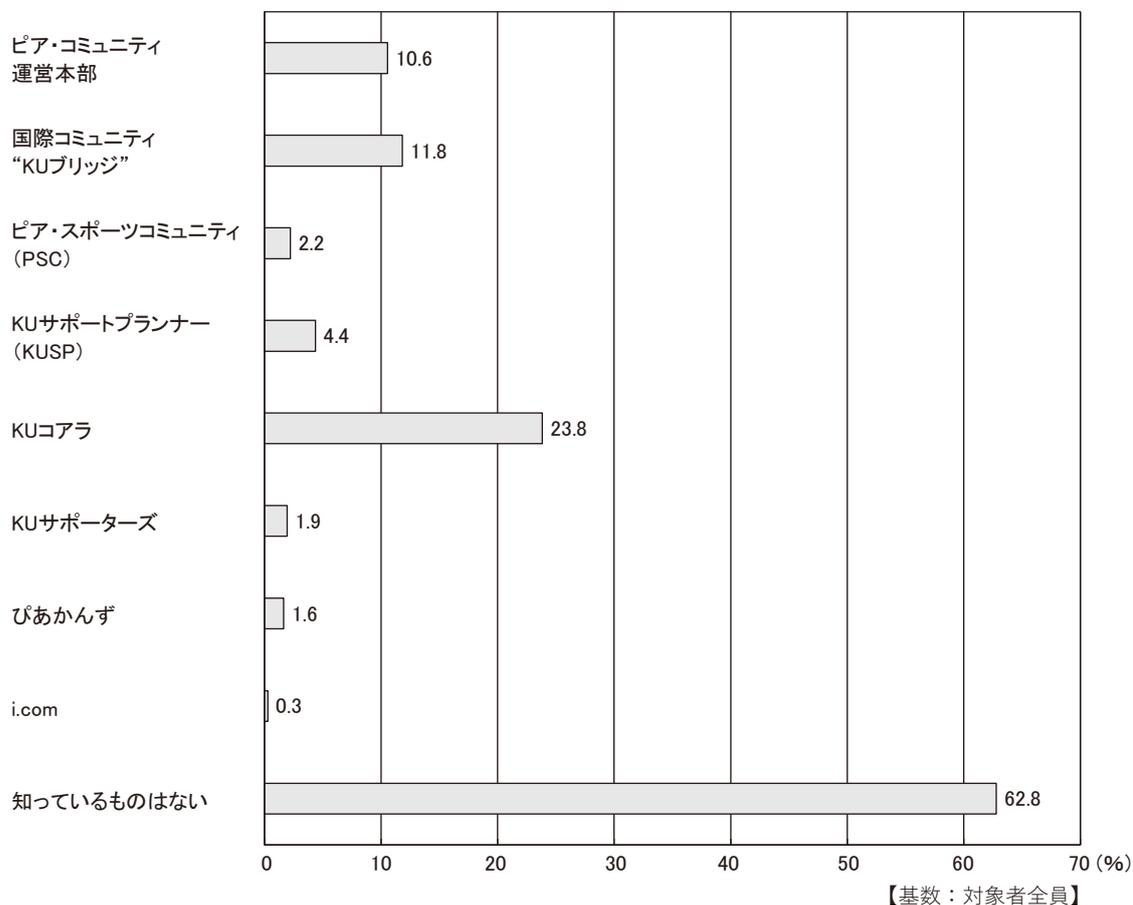
学部別にクロス集計表を見ると、外国語学部では「国際交流」75.0%、人間健康学部では「スポーツ関係」42.6%、環境都市工学部では「環境保全活動」50.0%と学部ごとに専門的に学んでいる分野でのボランティア活動のニーズがうかがえる。

また、今回の調査では、「特になし」と回答した学生の割合が13.0%と、前回調査（2020年度）と比較すると5.9ポイント減少しており、興味がある分野を明確に持っている学生の割合が増加していることが分かった。

# ピア・サポート活動の認知度

問24

あなたは関西大学の8つのピア・コミュニティ（学生団体）のうち、知っているものはありますか。（複数選択可）



## 学生認知度が低下している傾向にある

ピア・コミュニティの認知度について、「知っているものはない」と回答した学生の割合が62.8%となっており、ピア・コミュニティの認知度は低いという現状が分かった。

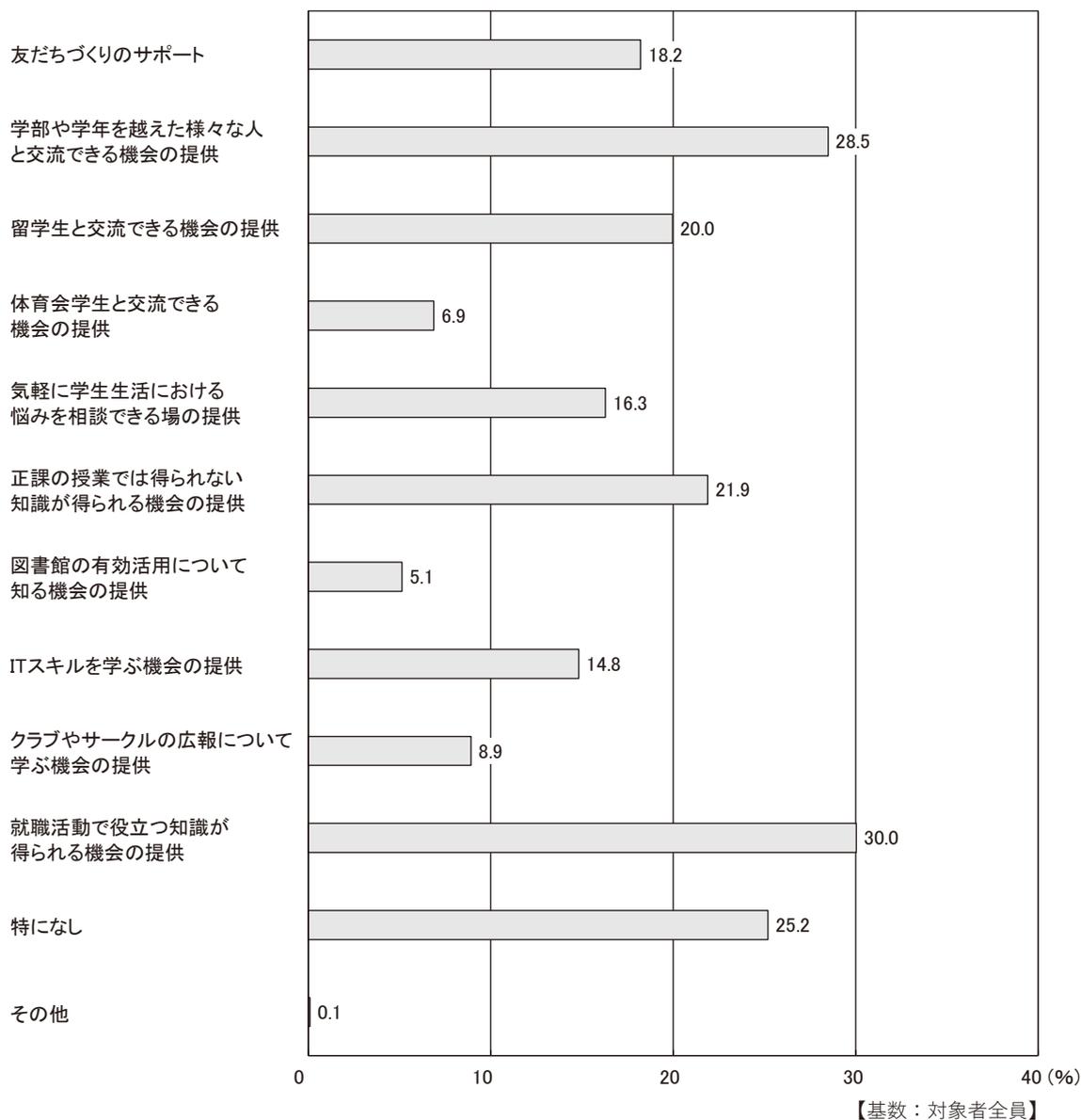
学部別にクロス集計表を見ると、「知っているものはない」と回答した学生のうち、人間健康学部が78.7%、総合情報学部が76.1%、社会安全学部が71.4%であり、千里山キャンパス以外の学生認知度が低いことがうかがえる。また、千里山キャンパスの理工系3学部においても70%を超えており、理工系学部においても学生認知度が低いことがうかがえた。

# ピア・サポート活動への期待

## 問25

あなたが求めるピア・コミュニティによる支援はどれですか。(複数選択可)

(副題)ピア・コミュニティとは、学生が求めている支援を、学生自らが企画・実践(ピア・サポート活動)をする団体です。



その他(自由記述)

・恋愛相談とか

## 就職活動に役立つ支援を求める学生が多い結果に

ピア・サポート活動への期待について、「就職活動で役立つ知識が得られる機会の提供」と回答した学生の割合が30.0%で最も高い結果となった。

学部別にクロス集計表を見ると、外国語学部では「留学生と交流できる機会の提供」が53.1%、総合情報学部では「ITスキルを学ぶ機会の提供」が37.3%となっており、所属学部の特色が、求めるピア・コミュニティによる支援に繋がっていることが分かった。



関西大学